

くすのき

校訓「かしこく やさしく たましく そしてふるさとを愛する子どもに」

西合志第一小学校
学校だより 第61号
文責 校長 西村羊治

令和7年1月8日

あけましておめでとうございます！



新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。今年の干支は巳（へび）です。へびと言えば多くの人が、怖いとか気持ち悪いとかを想像するかも知れません。しかし、「巳」の文字は、「蛇」を表す象形文字がルーツで、胎児の形を表すという説もあり、それによれば「起ころる」「始まる」「定まる」「将来や未来がある」「子孫繁栄」などの意味を持っているそうです。

のことから、西合志第一小学校やみんなにとっての将来や未来、そして繁栄を期待できる年でもあるし、期待したいと思います。今年度も残り3ヶ月、6年生は卒業に向けて、5年生から1年生は次の学年への進級に向けて日々「命」を大切にし、自分や周りのお友達の将来や未来を考えお互いが支え合い、「成長」を続けて欲しいと思います。今年のみんなの大活躍も期待しております。そのためには、是非自分の目標を立てて欲しいと思います。届きそうで届かない、届かなくて届く、絶妙な目標がいいかもしれません。校長先生は、健康でいること、睡眠・食事をちゃんととる。運動不足なのでできる運動を継続する。そして、みんなと一緒に楽しく学校生活を送る、等です。些細なことですが、この目標で一日一日を大切にていきたいと思います。みなさんも是非目標を！

日本の教育『小学校～それは小さな社会～』

冬休みの初日、2月25日（水）の朝、通勤のため身支度をしながらなんなくテレビを見ていました。内容は「日本教育の映画」でした。その映画監督は、山崎エマ氏で日本とイギリスにルーツをお持ちの方です。ニューヨークで暮らす中で、「自分らしさ」が、日本で過ごした小学校時代に学んだ「規律と責任」に由来していることに気付いたそうです。「6歳児は世界のどこの国でも同じだが、12歳になる頃には、日本の子どもは『日本人』になっている。すなわちそれは、小学校が鍵になっているのではないか。」という思いに至り、公立小学校での日常の撮影を実施し、映画を作ったということでした。その映画は、各国で話題となりその撮影された日本の小学校（東京）にフィンランドの高校教師や高校生が、現地視察に来ている映像がありました。また、運動会の練習を全校児童で行ったり、2年生が特別活動で学級の歌の歌詞をみんなで考える様子がありました。それを見て、「日本の小学校は、児童自らが学校を運営するためさまざまな役割を担い、集団生活における協調性を身に付ける場所だ。」と紹介されました。教室の掃除や給食の配膳などを子ども達自身が行う国は少なく、海外では日本式教育「TOKKATSU」（特別活動）が注目を集めているそうです。

日本の小学校教育のすばらしさを実感できるニュースでした。西合志第一小学校のみんなも「学習規律」を大切にして「日本人」として「成長」してください。